

「道標」＝「楽しい」×「為になる」

1. 「先行モデル」から学ぶ

右掲は、633号で「白秋期に学ぶ」というテーマで用いた五木寛之さんの著書表紙です。「地図のない明日への旅立ち」と「お金・健康・孤独の道標」の2フレーズが心に響いたのです。私も団塊の世代で今年満70才になります。体力の衰えが各所に出て来るし、友人の訃報が届く事も多くなっている上に、妻に先立たれて5年が経過しているのです。本当に、如何に生きるかという事が課題になって来ています。こんな状況なので五木先生の著書が目飛び込んだのです。

私は、若い時から10才上の方を自分の先行モデルとしてウオッチングしていましたが、先輩たちから得る情報が大きな「道標」になっていたのです。先行モデルの方々も次々と現役をリタイアされ、情報が年賀状だけとなる中、広島のご木原先生とはFaxとメールの交換で交流を頂け、一昨年は直接お会いして話す機会を得る事が出来ました。その先生も昨年亡くなられたのです。私は、先生から「人生、古来より百歳は稀なり、九十は奇とするに足る無し、八十は大いに為すべし、七十は得ること多し」と教えて頂き、この70台を有意義に過ごすようにご忠告を頂いたのです。

木原先生の70台は、平成15年に胃がんで摘出手術されて、その後は落ち着いておられました、80になられてガンの再発が顕著になり、最後は肝臓にも転移して薬石功なさずに昨年お亡くなりになりました。従って、先生の社内向け「ディリーメッセージ」は7553号まで書かれています。心よりご冥福を祈ります。参照：<https://www.marukoshi.jp/write/post-179062/>



2. 諸先輩に恵まれた

人は自分の力で生きていけると思いがちですが、実は多くの方に活かされているのだと思います。「生きる」＝「活かされる」と考えると多くの諸先輩やご同輩の世話になっていると実感します。例えば、大学の恩師、関西学院の西治先生からは卒業の前に「企業は大卒に調べる能力を期待している」と教えて頂き難問に出逢っても逃げずに「調べる」という努力をしないと教えて頂きました。また、就職したトヨタ系販売店の故福井社長からは「クルマを売れるコンピュータ」というテーマを頂き、約20年間、コンピュータに携わり全社オンラインシステムを構築し、トヨタ物流改善モデル店のリーダーやIBMのSISでテレ・マーケティングの構築までさせて頂き、当時のシステムではやり残したことはないと思うまで仕事をさせて頂きました。また、同社の故十河専務からは「a system in search of mission」（使命を求めて迷うシステム）にならないように「営業所へ行き、現場の声を聞く」という事を教えて頂きました。

さらに、IBMの担当課長だった灰本さんからは「A4で1頁の報告」という事を教えて頂き、毎週、故福井社長にレポートを上げる習慣をつけて頂き、この延長線上にこのAMIニュースがあると思っています。また、IBM関連では、UOSという団体で外部のシステム開発をするという事を3年間行いましたが、この時、K社の故辻専務にお世話になり、例えば、N生命でホスト・コンピュータと2000台のオフコンをAPPC手順で接続するモデル開発を行ったり、冷凍機メーカーの生産管理システムのMRP部分のチューンナップを行うなど自社では出来ない経験を積みました。これらの経験は、先述の全社オンラインに反映してあります。また、現在も同社の顧問をしています。少し違いますが、富士通システム会社の水島様はトヨタ系販売店入社3年目の頃からの長い付き合いでFAXとOCR機の導入だけでしたが、PL法セミナーを手伝わせて頂き貴重な第一号顧客獲得のキッカケを頂きました。

3. 「地図」=「地」+「図」、「図」=「道標」

私は、平成6年に船井総研の客員経営コンサルタント養成学校に自費で通い「船井流」を学びました。この時の講師が宮内先生で「地図は地というグラウンドがあり、その上に図を描くことだ」とおっしゃって、経営コンサルタントを目指す私たちに「一番商品」づくりを指導して頂きました。また、「心観学術体」という言葉でコンサルするには「術」と「体」の両面が重要だと教えて下さり、サラリーマン時代の「車検DM」の成功例から当時100%普及しているFaxを活用するコンサルティングを「一番商品」としたのです。つまり、コンサルティングという「地」に「Faxちらし」という「図」を描き今日まで24年間もお客様に支えられて事業を継続して来たのです。

心:AMI(仲間) 観:Advanced Management with Information 学:Faxマーケティング 術:Faxちらし・3段活用 体:Faxちらし制作・発信

今、間もなく70才になろうとしており、次の地図を描く必要があり「10年ビジョン」を描いています。まず、次の10年で最大のエポックは2025年大阪・関西万博であります。このお蔭で大阪も景気回復すると思われるので、弊社のお客様も応分の成長をされ、同じく弊社も成長すると思われれます。また、2025年は創業30周年に当たり、私は、76才なので社長交代の絶好のチャンスが来ます。三男も実力をつけて来ており、年齢的にも38才なので適格と思われれます。この事業承継が大きな「道標」になります。三男は、いろんなチャンスに人と出会い「縁・運・つき」を実践する必要があります。私は、邪魔をしないように見守る事が大切だと考えています。

その為には、老人の3K(健康・経済・孤独)問題をクリアする必要があります。これが、日常的な「道標」になります。つまり、健康面では「運動」と「認知」の両面で日常活動に織り込む事、経済面では年金も不足はないので適切な仕事で適切な報酬で十分にクリアできますが、最大課題が「孤独」の面です。5年前に妻に先立たれており、現在は三男と同居していますが、近い将来に独立すると思われるので一人生活になります。課題は、お蔭様で仕事は三男の邪魔をしなければ継続できますし、自宅と事務所の間を遠回りしてウォーキングする、余った余暇は地域活動やカラオケなどで積極的に活動する事で健康面も昼間は大丈夫と具体的に「道標」とできます。従って、残る最大課題は、一人で夜間を過ごす事ですが、住み慣れたマンションなので大丈夫と思っています。

4. Next「道標」=「楽しい」x「為になる」

私の人生において「愛語回天」を頂いた方々、福井社長、十河専務、木原先生、辻専務は80才前後で亡くなられています。従って、今、私は70才で少し衰えを感じていますが、80才までは大丈夫かと思っています。勿論、未知の世界なので、途中で何が起こるか分かりませんが、気持ち的には「百歳現役」を標榜して、80才は通過点の一つと思っています。

また、この10年は故木原先生が「得ること多し」と言っておられるように、私の経験が多くの皆様に役立ち具体的に「幸せ」をもたらすと確信しています。現実的には、地域活動でも世話役をさせて頂き、リーダー的な位置付けにもして頂いています。同じように、大阪商工会議所の「経営サロン」でも世話役を承っており、さらに、大阪府中小企業家同友会の阿倍野住吉支部でも「小グループ」活動で指南役を頂き会員相互の発展の為に私なりの視座(「楽しい」x「為になる」)で活動を始めています。

この「楽しい」x「為になる」を次の10年の重要な「道標」としたいと思います。「為になる」はこれまでの人生観で実証済みですが、「楽しい」は余り得意ではありません。しかし、「楽しそう」は創業以来24年間、貫いて来た事柄です。職業柄、「楽しそう」に振る舞う事が必要だったのです。その流れで、日常の3K課題を実践して行きたいと思っています。毎日、出社して事務所と自宅との道のりを遠回りして20分ウォーキングを続け、その間にカラオケを織り込んでストレス発散と新曲へのチャレンジで「認知」対策を行うのです。経済面や孤独面は知足であれば大丈夫です。これらの「道標」で頑張ります。

【AMIニュースのバックログは <http://www.web-ami.com/siryo.html> にあります！】